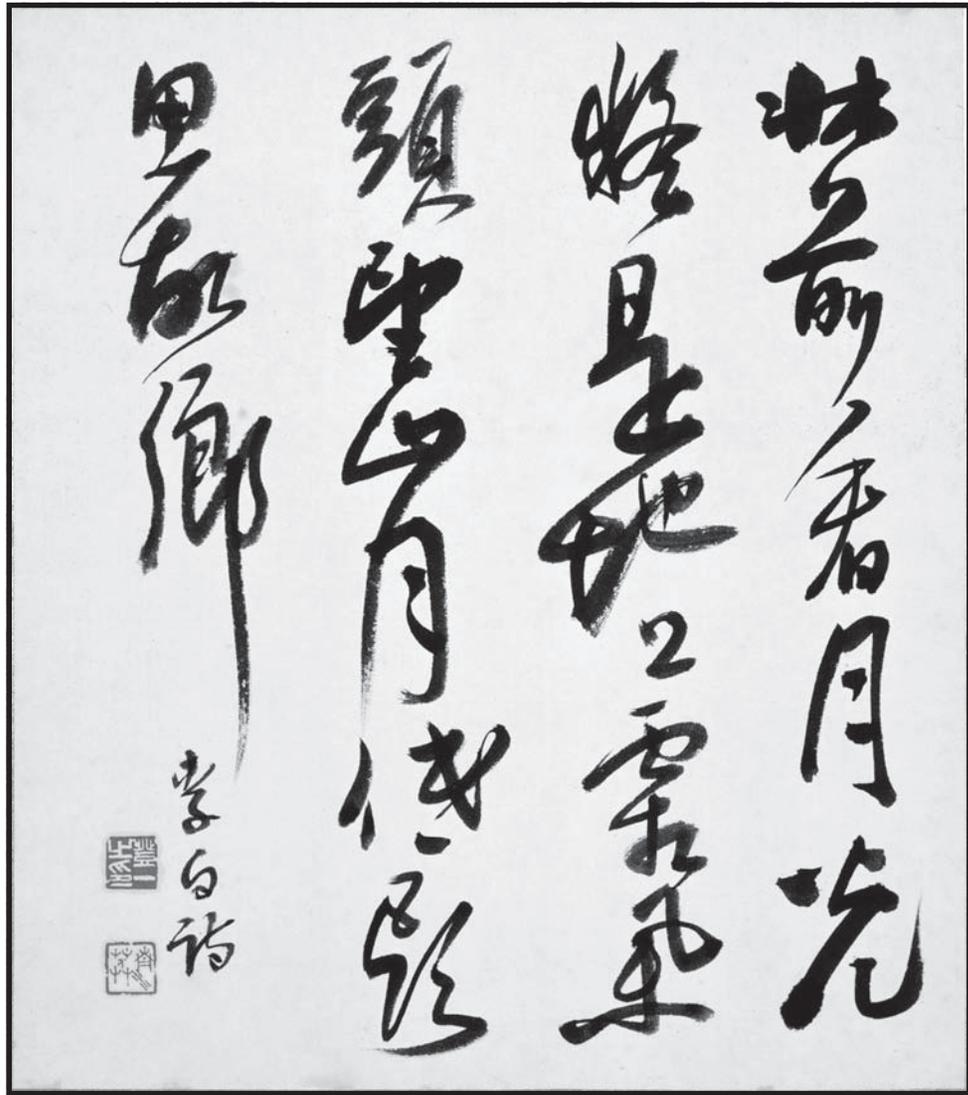


色紙を書く(10)

締切り 十月二十四日(必着)

奥村憲照先生書



〔読み〕 牀前看月光
疑是地上霜
頭望明月光
思故郷

〔出典〕 李白詩「静夜思」

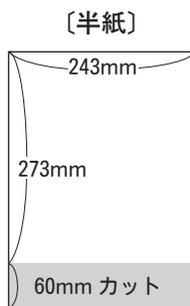
〔大意〕 静かな秋の夜、寝台の前に月の光が差し込むのを見て、地上に降りた霜かと疑った。光をたどって頭をあげ山の手端にかかった月を眺めたいと、故郷のことが思い起こされ知らず知らずうなだれてしまう。

静かな秋の夜、寝台の前に月の光が差し込むのを見て、地上に降りた霜かと疑った。光をたどって頭をあげ山の手端にかかった月を眺めたいと、故郷のことが思い起こされ知らず知らずうなだれてしまう。

- ◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。
- ◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。
- ◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。
- ◎創立六十周年の今年には、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。
- ◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□ 作品の出し方

- ▼毛筆部 左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。
- ※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



- ▼硬筆部 右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×一一一mm)になります。このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。今回は多字数のため、用具によっては毛筆部同様の大色紙サイズに書いても構いません。

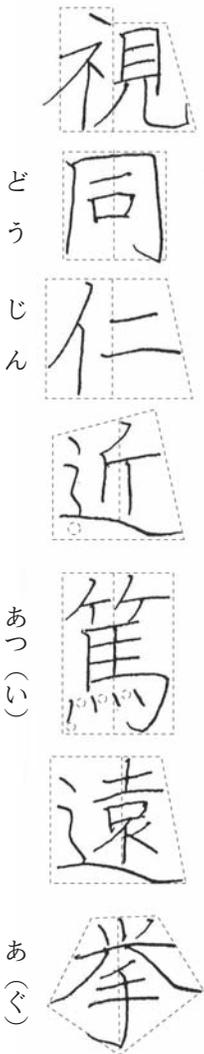
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕



◎楷書は特に文字の形を整える事が大切。書く時間より手本を見る時間、それも細部まで観察し理解すると上達が早い。
 ▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
 岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

▼師範Ⅱ楷書
 ▼教範・書範Ⅱ行書

◆11月課題予告(行草または草書)
 親を敬する者は
 敢えて人を慢らず
 孝教

★一視：(書体Ⅱ楷書)
 韓愈(かんいゆ) (夫へくへん) 四
 中国、中唐の文学者、思想家
 人はとかく単なる好き嫌いや、普段のつきあいでの「えこひいき」がちですが、これでは成熟した社会は生まれません。
 すべての人を同じように見て、近くの人でも遠くの人も平等に接することが大切です。



おお たに せい じょう 書
 大 谷 清 城 書

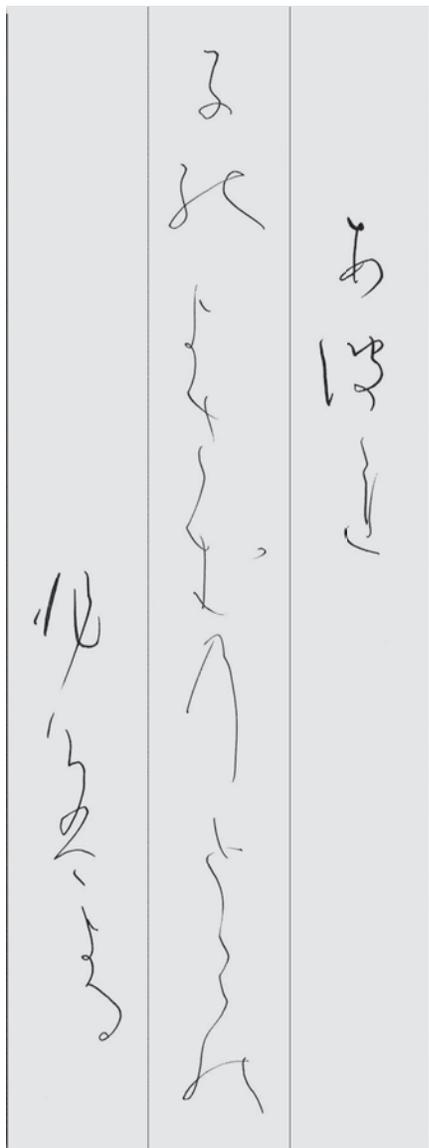
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★一悪：(書体Ⅱ行書)
 太宗(たいそう) (五へくろひ) 七
 中国、唐の第二代皇帝
 人を判断する際に、一つの欠点だけを見て決めつけてはいけません。人には必ず長所があるものです。ふとしたきっかけで思わぬ才能を発揮するかも知れません。また一つの失敗があったからといって長年の功績を忘れて非難することも避けなければなりません。
 ◆11月課題予告(楷書)
 初心の程は
 無尽に稽古
 すべきなり

準初段から六段まで

新入から1級まで



あはれ子の夜寒の床の引けば寄る

おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



あはれ子の夜寒の床の引けば寄る

おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

あはれ子の夜寒の床の引けば寄る
(中村汀女)

【句意】晩秋の夜ともなれば、ここ北国は、一段と夜寒が身にしみて感じられる。子どもの床を自分の床に引き寄せてみると、その意外な軽さに、今さらながら、幼いわが子をしみじみいとしく思う気持ちが込み上げてきたことである。

〔古筆参考〕

波は 連れ 能の 非ひ 介け 盤は
波は 連れ 能の 非ひ 介け 盤は

◆11月課題予告

冬菊のまとはおのがひかりのみ

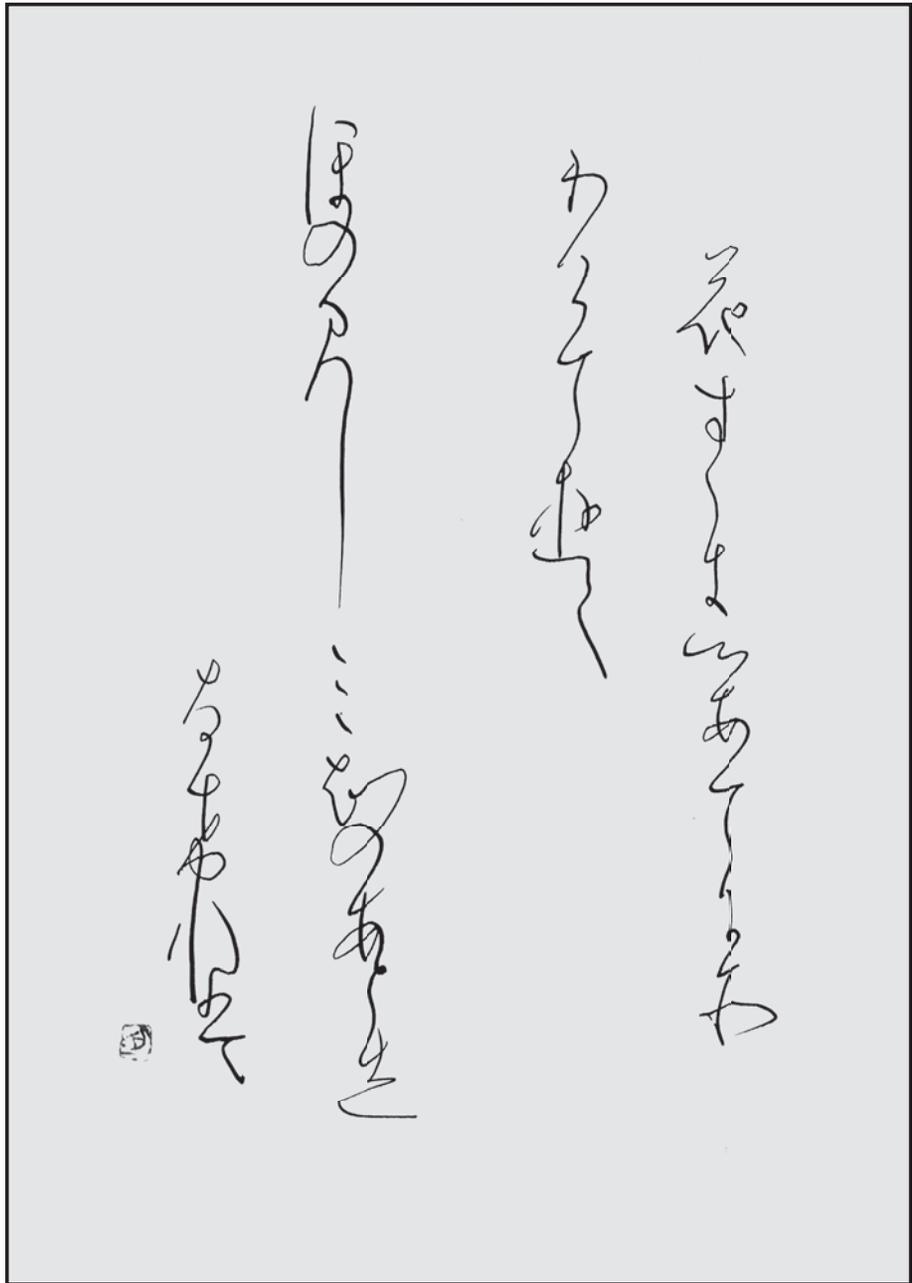
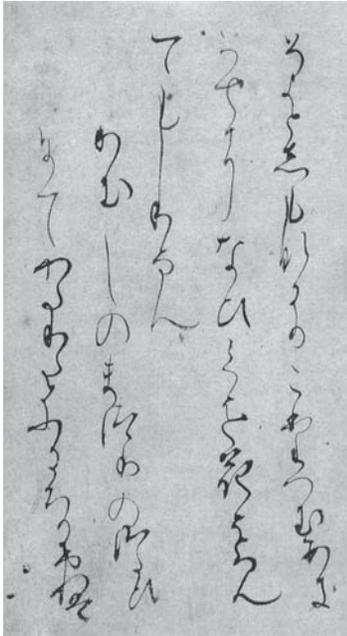
(水原秋桜子)

締切り 十月二十四日(必着)

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

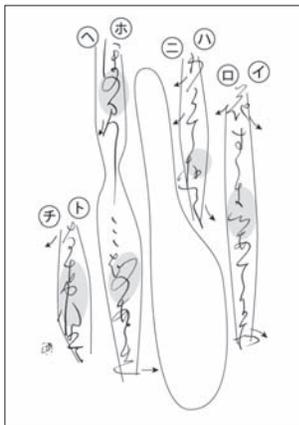
いちじょうせつしやうしゅう
一条撰政集



曾志那尔可堂支
そよとしもなにかこたへむあき
可耳
かぜになびくを花をみ
利奈七
てもしりなむ
利徒徒可
りむじのまつりのつかひ
尔多尔
にてわたりたまふに、ちかければ

花薄心あてにぞ分けてゆく
尔所わ介遊
ほの見し道の跡しなければ
三知 志奈希 盤

〔歌意〕花薄を分けながら当て推量で進んでゆくよ。かつて通ったことがあってかすかに覚えている道も、生い茂った薄のために跡がわからないので。
〔出典〕山家集(新潮日本古典集成)
〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、呼応。
- ①と⑧、①と⑨、①と⑩、①と⑪、①と⑫の行ふくらみ。
- 行の中の密大切。(動きを見る)
- 方向大切。(余白が動く)
- 余白大切。

◆11月課題予告
やまざくら初雪降れば咲きにけり
吉野は里に冬ごもれども

締切り 10月24日(必着)

再来月から、当地にその人ありと知られた立川先生を拙宅にお迎えして、詩吟の会を始めることになりました。そこで只今同好の士を募集中。ストレス解消にも最適です。ぜひご参加下さい。

再来月から、当地にその人ありと
知られた立川先生を拙宅にお迎え
して、詩吟の会を始めるとい
なりました。そこで只今同好の士
を募集中。ストレス解消にも最適
です。ぜひご参加下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お 尾 郷 翠 光 書

安藤広重は、東海道五十三次で、
世界的に有名な浮世絵師である。
宮城県大崎市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 10月24日(必着)



〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
 〔読み〕興るも、僅かに中算を得、漢



〔読み〕秋高くして風月佳し
 〔大意〕秋の空は高く、風や月など自然の風景に趣がある。



興 僅 得 中 算 漢

準初段から師範まで

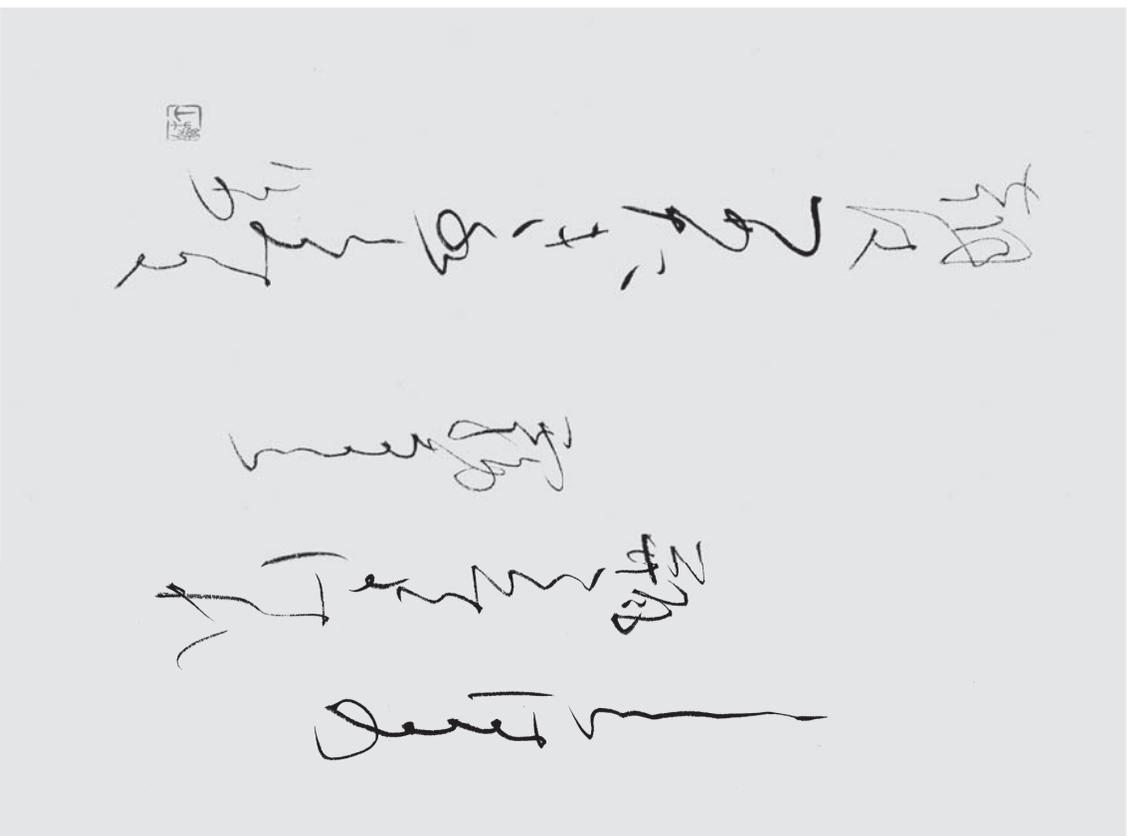
奥村暢之臨

新入から1級まで（行書）

須田一葉書

一般部毛筆かな課題

締切り 10月24日(必着)

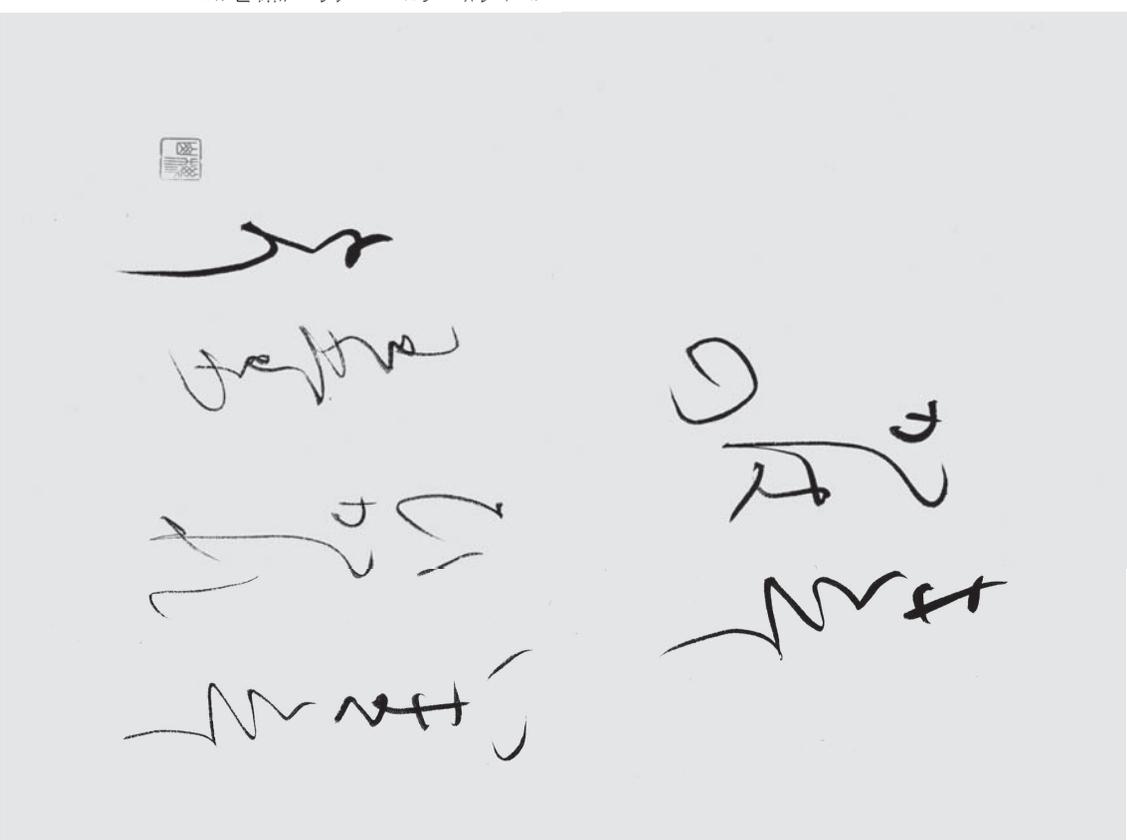


白埴しらほろの瓶びんこそよけれ霧きりながら
朝あさはつめたき水みづくみにけり

【出典】長塚節ながつかたかし

【歌意】白い土の瓶こそ、まことによい。流れる霧に濡れながら、今朝

はつめたい水を汲んだことである。



木曾川きそがわの今いまこそ光ひかれ渡り鳥わたりどり

準初段から師範まで

■河課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

【出典】高浜虚子たかはまきよこ

【句意】山麓から突如、浮かびいでつつ飛び立つ小鳥の無数の群れを見て、

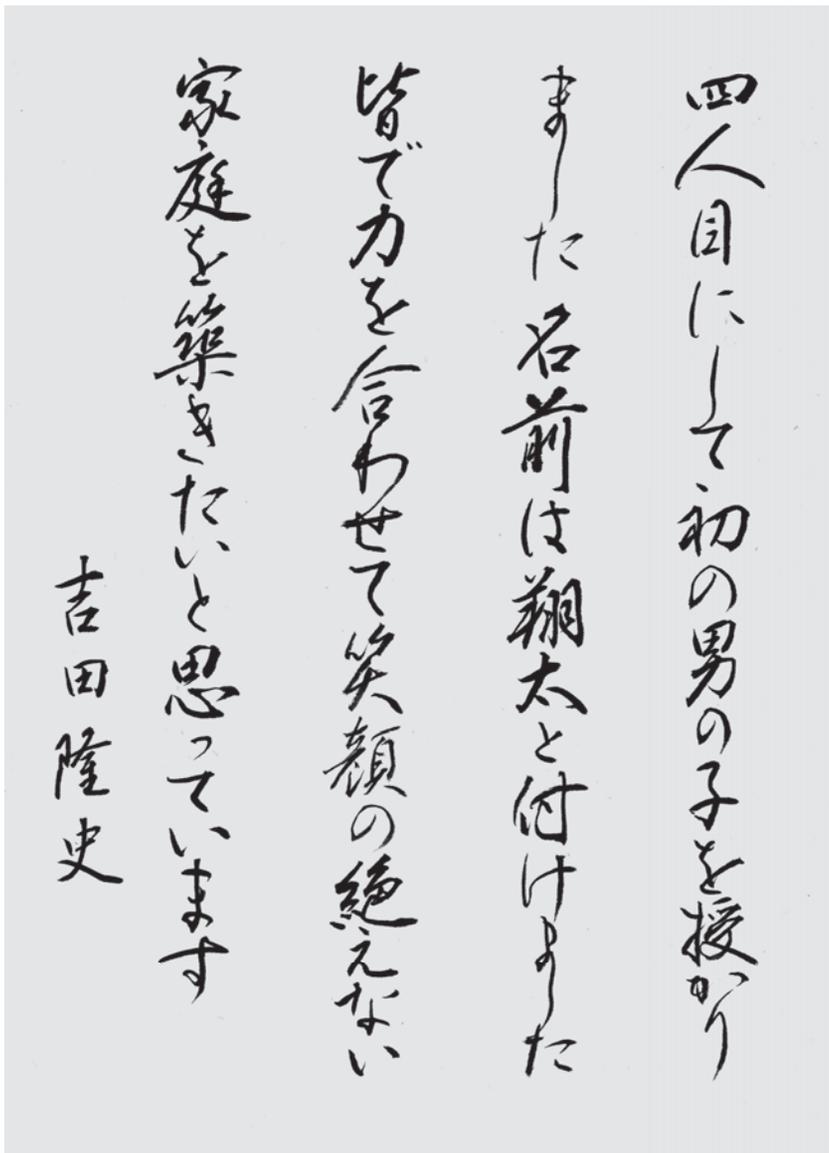
思わず息をのんだ、その驚きが表現されている。

新入から1級まで

浅井あさい機山きざん先生書

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 十月二十四日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻 田 蒼 仙 書

残星幾點雁横塞長
ちようてきいっせいはとろうによる
長笛一聲人倚楼

〔大意〕いくつかの
残り星のもとに雁が自
分たちの砦を渡ってゆ
き、余韻長き笛の音が
聞こえるのでみれば高
楼に人影がある。
初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕枚数も重ね習熟度の高い作でも、墨
量が少ないばかりに深みのない軽い作になっ
て選外になった例が多くあります。されば、少
し滲む程に墨をふくませて書くことです。と同
時に過ぎた滲みを止める(紙で軽く圧して)こ
とも大切です。

四人目にして初の男の子を授かり
ました。名前には翔太と付けました。
皆で力を合わせて笑顔の絶えない
家庭を築きたいと思っております。

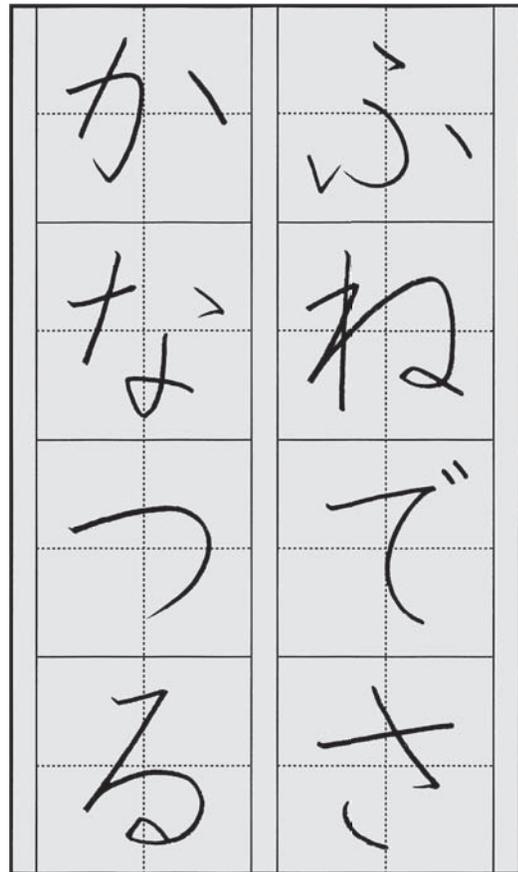
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

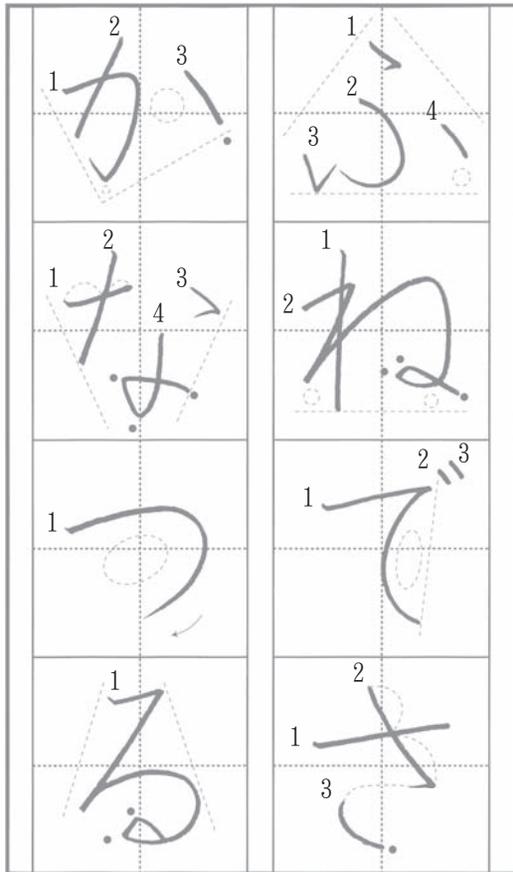
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわり
ます。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ
う
年



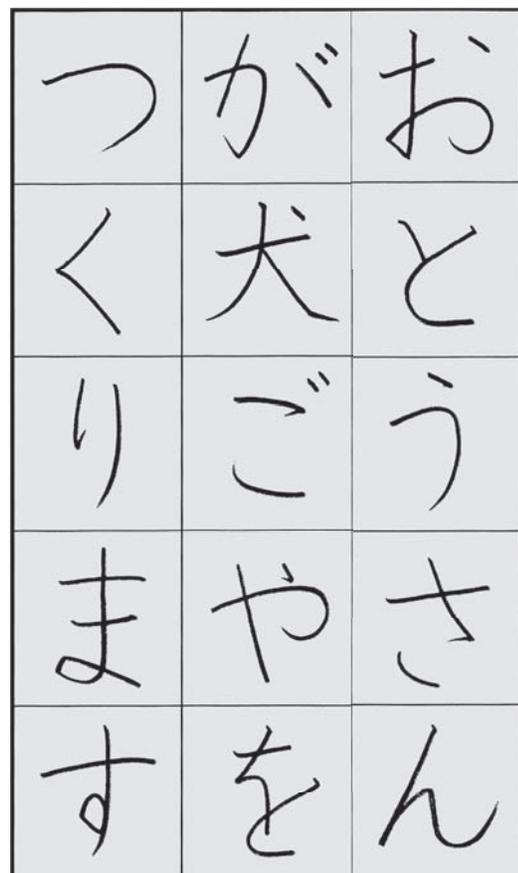
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

小
一
年

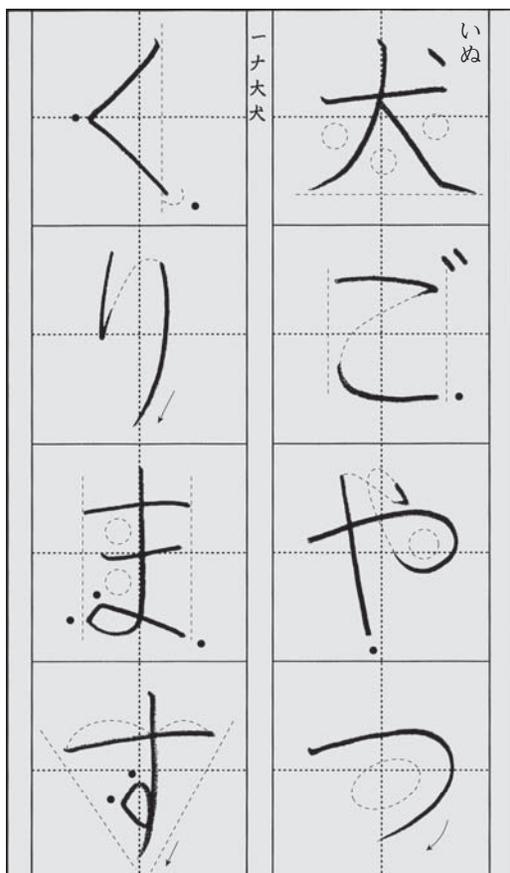


(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

準初段以上

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

し	赤 <small>あか</small>
を	い
頭 <small>あたま</small>	ぼ
に	う

新入〜1級

つ	を	赤
て	頭	い
走	に	ぼ
る	か	う
よ	ぶ	し

準初段以上

小二年

準初段以上

用 <small>ヨウ</small>	ひ
意 <small>イ</small>	き
す	肉 <small>ニク</small>
る	を

新入〜1級

を	使	り
用	う	よ
意	ひ	う
す	き	理
る	肉	に

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

景	道	夕
が	に	方
好	見	の
き	る	帰
だ	風	り

準初段以上

新入〜1級

見	帰
る	り
風	道
景	に

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

小五年

が	は	耕
豊	秋	し
作	の	た
で	野	畑
す	菜	で

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

菜	耕
豊	畑
作	秋
	野

小四年以上
岡嶋桂川書

▼小三年以下の課題 はな むら すい せん 書
花 村 翠 仙

大 <small>おお</small>	み	ま	お	お	
き	な	ご	ば	じ	
な	で	に	あ	い	
か	引 <small>ひ</small>	動 <small>どう</small>	さ	さ	
ぶ	っ	物 <small>ぶつ</small>	ん	ん	
	ぱ			と	
	る				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 やま かど りょく じょう 書
山 門 緑 城

獵 <small>りょう</small>	赤 <small>あか</small>	食 <small>た</small>	変 <small>へん</small>	お	
師 <small>し</small>	ず	べ	装 <small>そう</small>	ば	
に	き	ら	した	あ	
助 <small>たす</small>	ん	れ	た	さ	
け	は	た	狼 <small>おおかみ</small>	ん	
ら			に	に	
れ					
た					



※「狼」は人名用漢字です。

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年なま〜小二年
玉樹き小華しょうか書



小五
野秋
菜の

肉ひ
き

小三

秋野
菜

肉帰
道

道帰
り

小四

小三、小五年
水野の香竹書

中二
記新

小六
資国

事聞

格家

小六(中二・三年)

奥村暢之書

袋

資

1 2 3 4
聞

格

記

物

中一
物買

袋い